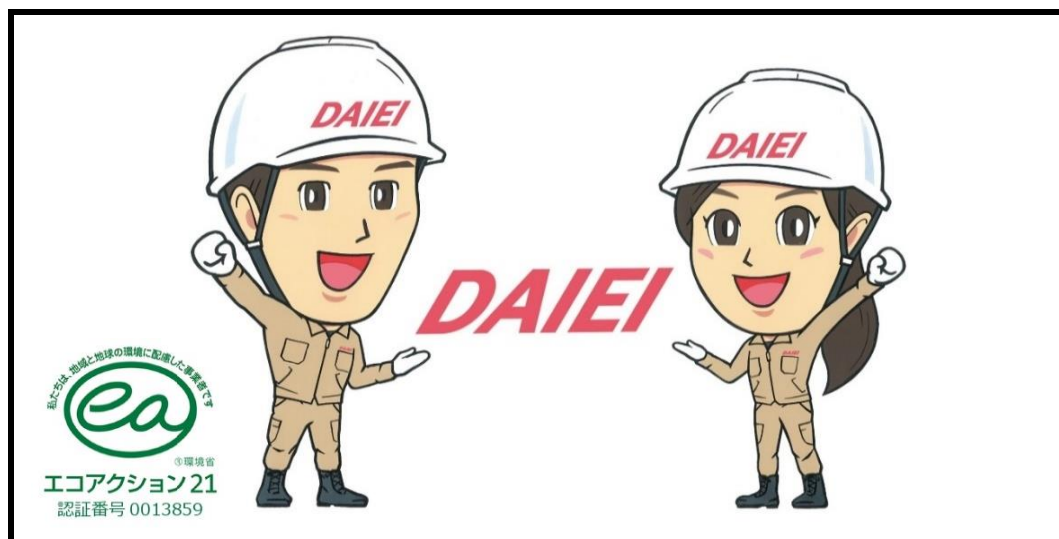


株式会社 大永建設

2024年度 環境経営レポート

(対象期間：2023年 7月～2024年 6月)



発行日： 2024年10月15日

I. ごあいさつ

株式会社大永建設は、平成17年の設立以来、土木工事業を通して地域社会の発展に尽力してまいりました。全従業員が地球環境の保全の重要性を認識し、環境負荷の低減に努めることにより、美しい国土の維持、人と環境が共存する社会を目指して取り組んでまいります。

環 境 経 営 方 針

当社は、企業理念である“顧客から必要とされ、安心して任せてもらえる会社”に基づいて、土木工事、上下水道工事、下水管更生、及び橋梁工事の各事業分野において、地球環境の保全のために、課題とチャンスを定期的に明確化し見直し環境負荷の一層の低減を図るべく、全社一丸となって、自主的・積極的に環境への取組を推進します。

1. 環境経営の継続的改善を誓約します。
2. 環境関連法規制や当社が約束したことを遵守します。
3. 二酸化炭素排出量の削減を推進します（電気、ガソリン、軽油）。
4. 廃棄物の削減とリサイクルを推進します。
5. 水使用量の削減を推進します。
6. 環境に配慮した施工を推進します。
7. 本方針を全従業員に周知徹底します。

制定日：2022年10月 1日

代表取締役 徐 彰宣

II. 組織の概要

- (1) 名称及び代表者名
株式会社大永建設
代表取締役 徐 彰宣
- (2) 所在地
本 社 〒661-0953 兵庫県尼崎市東園田町6丁目96番5-106
伊丹営業所 〒664-0864 兵庫県伊丹市安堂寺町6丁目396番地
- (3) 環境管理責任者及び担当者の氏名と連絡先
責任 代表取締役 徐 彰宣 TEL:072-744-5043
担当 総務部 安座間 ちづる FAX:072-744-5047
Email:a-c-1808@daiei-c.co.jp
- (4) 事業内容
土木工事業、上下水道工事業、下水管更生事業、橋梁工事業
許可番号 兵庫県 第218197号 許可年月日 令和2年12月5日
許可期限 令和7年12月4日
- (5) 事業の規模
①建設業 年間工事完成高 674百万円(2024年度)

	本社	伊丹営業所	合計
従業員	1名	19名	20名
延べ床面積	20㎡	275.80㎡	295.80㎡
敷地面積	-	520㎡	520㎡

- (6) 事業年度 7月～翌年6月

III. 認証・登録の対象範囲

登録組織名：株式会社大永建設

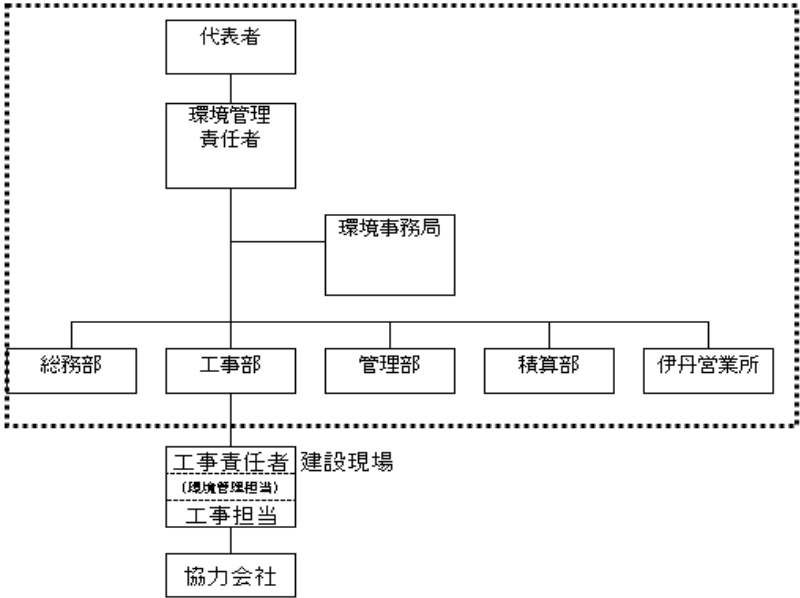
対象事業所：本社、伊丹営業所

対象外：なし

活 動：土木工事業、上下水道工事業、下水管更生事業、橋梁工事業

□環境経営システム組織

制定日： 2022年10月1日
更新日： 2023年7月1日
作成者： 安座間ちづる



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間、技能、技術者を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し・指示を実施 ・環境経営レポートの承認 ・経営における課題とチャンスの明確化
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規制等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練の指導及び総括 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
環境事務局	・環境管理責任者の補佐 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規制等取りまとめ表の作成、遵守評価の実施 ・環境教育訓練計画の作成と実施の管理 ・特定された項目の手順書作成（緊急事態への対応を含む） ・環境経営レポートの作成、公開(事務所への備付けと地域事務局への送付)
部門長	・自部門における環境経営システムの実施 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育訓練の実施 ・自部門に関連する環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・特定された項目の運用管理 ・緊急事態対応手順のテスト、訓練を実施、記録の作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施
工事責任者 (現場代理人)	・建設現場における環境経営システムの実施 ・工事担当者及び協力会社員に対する教育訓練の実施 ・建設現場の環境経営計画の実施及び達成状況の報告 ・緊急事態対応訓練の実施、記録の作成 ・建設現場での問題点の発見、是正、予防措置の実施
全従業員	・環境経営方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

IV. 主な環境負荷の実績

項 目	単位	2022年度 基準年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	57,675	38,121	107,449
電力使用量	k Wh	13,743	6,437	9,132
電力使用量	k Wh	14,406	11,242	15,338
ガソリン使用量	L	11,546	8,018	12,055
軽油使用量	L	7,646	4,707	26,864
廃棄物排出量	kg	-	1,467,404	2,688,581
一般廃棄物	kg	実績不明	3,224	4,751
産業廃棄物	kg	169,870	1,464,180	2,683,830
水道水使用量	m ³	169	142	397
化学物質	kg	0	0	49.62

V. 環境経営目標及びその実績

(1) 中期目標		年 度				
項 目		2022年度 基準年度	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度
I. 二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂	57,675	57,098	56,521	55,944	55,368
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
	電力使用量削減	13,743	13,606	13,468	13,331	13,193
	(関西電力)					
	kg-CO ₂	4,274	4,231	4,189	4,146	4,103
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
	電力使用量削減	14,406	14,262	14,118	13,974	13,830
	(リコージャパン)					
	kg-CO ₂	6,886	6,817	6,748	6,679	6,611
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
	ガソリン 使用量削減	11,546	11,431	11,315	11,200	11,084
II. 廃棄物排出量	L	26,787	26,519	26,251	25,983	25,715
	kg-CO ₂		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
	対基準					
軽油 使用量削減	L	7,646	7,570	7,493	7,417	7,341
	kg-CO ₂	19,728	#VALUE!	19,333	19,136	18,939
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
一般廃棄物 削減	kg	実績不明	実態調査 目標設定	取組継続	取組継続	取組継続
	対基準		取組開始			
産業廃棄物 適正管理	-	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理	適正管理
	排出量kg	169,870				
建設リサイクル率 の向上	%	100	100	100	100	100
	対基準	100	100			
III. 水使用量 削減	m ³	169	167	166	164	162
	対基準		△ 1 %	△ 2 %	△ 3 %	△ 4 %
IV. 化学物質使用量 削減	kg	実績なし	実態調査	実態調査	取組継続	取組継続
			取組開始			
V. 環境に配慮した 施工の推進	件	実績不明	実態調査 目標設定	取組継続	取組継続	取組継続
	対基準		取組開始			

注) 電力の二酸化炭素排出量への排出係数は、関西電力㈱2021年度実績値の調整後係数 0.311kg-CO₂/kWh及びリコージャパン㈱2021年度実績値調整後係数0.478kg-CO₂/kWhを使用。

(2) 2024年度の実績

年 度 項 目		2022年	2024年度実績			
			(2023年7月～2024年6月)			
		基準値	目標	実績	達成度	評価
I．二酸化炭素 排出量削減	kg-CO ₂ 対基準	57,674	56,521	107,448	53%	×
			△2%	190%		
電力使用量削減 (関西電力㈱)	kWh	13,743	13,468	9,132	147%	○
	kg-CO ₂ 対基準	4,274	4,189	2,840		
			△2%	68%		
電力使用量削減 (リコーシステム㈱)	kWh	14,406	14,118	15,338	92%	△
	kg-CO ₂ 対基準	6,886	6,748	7,332		
			△2%	109%		
ガソリン 使用量削減	L	11,546	11,315	12,055	94%	△
	kg-CO ₂ 対基準	26,787	26,251	27,967		
			△2%	107%		
軽油 使用量削減	L	7,646	7,493	26,864	28%	×
	kg-CO ₂ 対基準	19,727	19,332	69,309		
			△2%	359%		
II．廃棄物削減						
一般廃棄物 削減	kg 対基準	実績不明	実態調査	4,751	—	○
			—	—	—	
産業廃棄物 適正管理	— 排出量kg		適正管理	適正管理		○
		169,870		2,683,830		
建設リサイクル率 の向上	％ 対基準	100	100	98.2	98%	△
III．水使用量 削減	m ³ 対基準	169	166	397	42%	×
			△2%	△6%		
IV．化学物質使用量 削減	kg	使用実績なし	—	49.62	—	—
V．環境に配慮した 施工の推進	件 対基準	実績不明	実態調査	10	—	—

注1) 達成度欄にて、削減を目指す場合は、達成度＝目標÷実績×100(%)、増加を目指す場合は、達成度＝実績÷目標×100(%)

注2) 評価欄にて、○：達成（100%以上）、△：やや未達成（70%～100%未満）、×：未達成（70%未満）

注3) 建設リサイクル率の実績＝再資源化量（2,634,410kg）／産業廃棄物発生量（2,683,830kg）

注4) 環境に配慮した施工とは、騒音、振動、粉じん、道路の汚れ、水の汚れなどを防止し、廃棄物適正処理・3Rに努め、付近住民の生活に配慮した工事を言う。

VI. 環境経営計画及び取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

◎よくできた ○まずまずできた △あまりできなかった ×全くできなかった

取り組み計画	達成状況	評価結果と次年度の環境経営計画
二酸化炭素排出量の削減	未達成	軽油が工事現場件数の増加で、目標を大きく上回った。
(下記の通り)	○	取組はできたが現場数の増加等により数値は達成できなかった。
電力使用量の削減	達成	
・空調温度の適正化 (冷房28℃暖房20℃)	○	クールビズ・ウォームビズの取組を実施、今後取組の強化案を考える。
・不要照明の消灯	○	次回継続
・設備の空運転禁止	○	次回継続
ガソリン使用量の削減	やや未達成	
・アイドリングストップ	○	次回継続
・急加速・急停車の防止	○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。今後も継続。
・移動コースの効率化	○	事前にネットでの検索を行ったためできた。次回継続
・空気圧、オイル等の点検	○	普段よりオイル交換時期など心がけている為できた。今後も継続する。
軽油使用量の削減	(未達成)	工事現場件数が基準値制定時より、大幅に増加した。基準値が弊社の代表数値ではないため、
・アイドリングストップ	○	普段より安全運転に注意しているのでまずまずできた。今後も継続。
・重機の空ふかしの禁止	○	もっと意識をイエコドライブを実行する。
・空気圧、オイル等の点検	○	現場数の増加に普段よりオイル交換時期など心がけている為できた。今後も継続する。より点検時間のかく
一般廃棄物の削減	目標達成	
・分別によるリサイクルの推進	○	ゴミ袋の平均重量×月間の個数で計測した。今後も継続する。
・ミスコピーの防止	○	印刷前に確認する事を心かけた。今後も継続する。
・裏紙の活用	○	今後も裏紙を活用し、削減に努める。
産業廃棄物の適正管理	目標達成	
・分別による最終処分量の削減	○	正確な排出量を把握する工夫をする。
建設リサイクル率の向上	やや未達成	
・分別によるリサイクル推進	○	適切な処理業者に委託している。今後も継続する。
・仮設資材の再利用の推進	○	仮設資材を修理することで再利用に努めた。
	未達成	基準値制定時より、大幅に増加した。基準値が弊社の代表数値ではないため、今後基準値の見直しを行う。
水使用量の削減		
・節水の周知徹底 (節水ポスター掲示)	○	節水の呼びかけにより達成できたが、より徹底をはかる。
・清掃時・手洗い時の節水	○	より多くの工夫ができるようにする。
化学物質使用量の削減	(実態調査を行った)	
・化学物質の成分や過去の使用量 実績など	○	常時使用はしていない。今年度は受注現場の材料仕様により使用した。
環境に配慮した施工の推進	(実態調査を行った)	
・環境に配慮した工法やノウハウなどを調査し、受注案件への適用検討及び施工を推進する。(低騒音・低排出型重機使用、散水、汚濁防止スクリーン等)	○	今後も低騒音・低排出型重機使用を継続する。

VII. 環境関連法規等の遵守状況の評価の結果

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りである。

適用される法規制	遵守する事項	遵守評価
廃棄物処理法	保管基準の遵守、収集運搬・処分業者との適正な契約、manifestの交付・保存・確認・交付状況等報告書の提出	遵守
	多量排出業者(1,000 t /年)以上は産業廃棄物処理計画書及び実施報告書を作成し、知事へ届け出る	遵守
建設リサイクル法	建築物等の分別解体義務、事前届出	遵守
建設業の再生資源利用省令	再生資源、建設工事副産物の再利用	遵守
自動車NOx・PM法	規制対象車両の登録禁止、規制対象車両の指定地域通行禁止	遵守
騒音規制法 各市公害防止条例	特定建設作業の届出、規制基準の遵守	遵守
オフロード法	基準に適合した特定特殊自動車の使用	遵守
低騒音・低振動型建設機械の規程	低騒音・低振動型建設機械の使用の促進	遵守

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規への違反はありません。

なお、関係当局より違反等の指摘はありません。

VIII. 代表者による全体の評価と見直し・指示

現場数に応じ、各現場ごとの担当者の意識付けの定着を図り、具体的な数値目標を定め、達成を目指す。

項目	見直し要否	見直し内容
環境経営方針	否	-
環境経営目標	要	基準値の見直し
環境経営計画	要	基準値の見直し
実施体制	否	-
その他	否	-

2024年 7月 4日
代表取締役 徐 彰宣

IX. 環境への取組の紹介



<節水掲示板>



<節電掲示板>



<地域清掃活動>



<環境配慮の施工>